

ヘルパンギーナの注意喚起について

県内で乳幼児のヘルパンギーナの患者が増加しています。

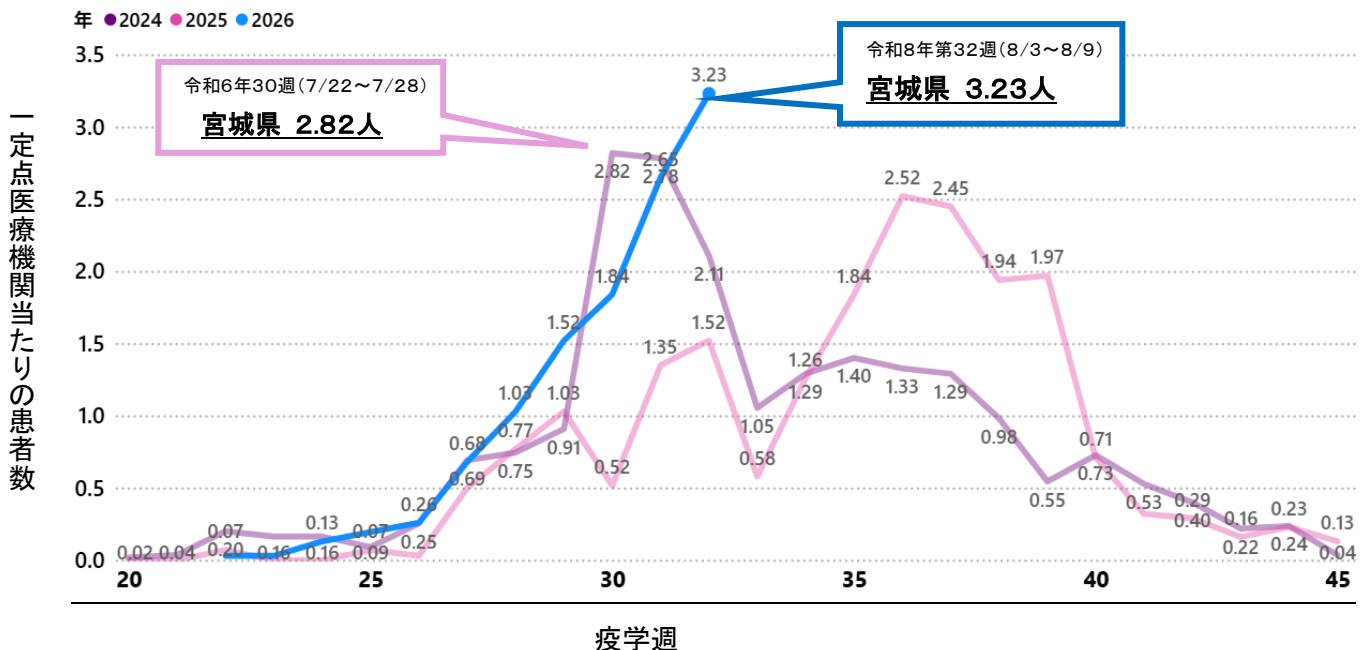
県が実施している感染症発生動向調査において、ヘルパンギーナの1定点医療機関当たりの患者数が26週(6/22～6/28)以降、7週連続で増加しています。大崎保健所管内においては、令和6年度まで運用していた警報開始基準(6人)を超えて10.67人となっています。

ヘルパンギーナは乳幼児を中心に夏季に流行がみられる感染症です。主な症状は発熱のほか、のどの痛みと口の中に水泡が現れます。手足口病と同じ種類のウイルスによって引き起こされ、飛沫や接触により感染します。

手足口病についても引き続き患者数が増加しているため、石けんと流水による手洗いと咳エチケットを徹底しましょう。

○ 各保健所管内における1定点医療機関当たりのヘルパンギーナ患者報告数

	保健所名						宮城県(合計)
	仙南	塩釜	大崎	石巻	気仙沼	仙台	
25週 (6/15～6/21)	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
26週 (6/22～6/28)	0人	0人	2人	0人	0人	0.13人	0.26人
27週 (6/29～7/5)	0人	0.33人	0.67人	0.33人	0人	1.07人	0.68人
28週 (7/6～7/12)	0人	0.33人	2.67人	0人	0人	1.47人	1.03人
29週 (7/13～7/19)	0人	0.5人	6人	0.33人	0人	1.67人	1.52人
30週 (7/20～7/26)	2人	0人	4.67人	0.67人	0人	2.47人	1.84人
31週 (7/27～8/2)	4.50人	0.5人	7.67人	0.67人	0.50人	2.93人	2.65人
32週 (8/3～8/9)	1.00人	1.33人	10.67人	3.67人	2.00人	2.87人	3.23人



～ヘルパンギーナの予防～

- 1 食事の前、排泄後、おむつ交換後等、こまめに石けんと流水による十分な手洗いを徹底しましょう。
- 2 乳幼児がよく触れる場所やおもちゃなどは、次亜塩素酸ナトリウムによる消毒が有効です。
- 3 家族や身近な方が感染した場合は、タオルの共用を避けましょう。
- 4 熱中症には十分注意した上で、場面に応じてマスクを正しく着用するなど咳エチケットを心がけましょう。

～ヘルパンギーナとは～

原因：エンテロウイルス属（主にコクサッキーウイルス A 群）への感染です。

症状：突然の発熱（38～40℃）に続いて、のどの痛み、口の中に水疱（水ぶくれのような発疹）が現れます。
口の中の痛みのため、食事や水分がとりにくくなり、脱水になることがあります。
多くの場合、予後は良好。まれに重症化（髄膜炎・心筋炎等）することがあります。

好発年齢：5歳以下の乳幼児に多いです。

潜伏期間：2～4日

感染経路：接触感染（便などで汚染された場所を触った手を口や鼻にもっていくことで感染します。）
飛沫感染（咳やくしゃみで飛散した飛沫の中のウイルスにより感染します。）

治療方法：症状を緩和する対症療法が行われます。
食事や水分がとりにくくなるため、柔らかく刺激の少ない食事を工夫し、水分補給を心がけることが大切です。

その他：治った後も2～4 週間は便と一緒にウイルスが排泄されることがあるため、排便後の手洗いを徹底するほか、患者が乳幼児の場合はおむつ交換後の手洗いも重要です。
特に、乳幼児同士の接触が起こりやすい保育施設や幼稚園などでは感染が広がりやすいため、子どもの体調の変化に気をつけましょう。

○ 参考となるホームページ

厚生労働省「ヘルパンギーナ」

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekaku-kansen-shou/herpangina.html

国立健康危機管理研究機構「ヘルパンギーナ」

<https://id-info.jihs.go.jp/diseases/ha/herpangina/index.html>

宮城県結核・感染症情報センター

<https://www.pref.miyagi.jp/site/hokans/kansen-center.html>